

関西学院大学 スカイセミナー

Sky Seminar



聖地のアフオーダンス

Vol 47 社会心理学からみる巡礼

スペインのセウイリアで1991年から1年間過ごした。セウイリアで万博、バルセロナでオリンピックが開催され、当時のスペインは高度成長の真只中。だがアンダルシア地方ではセマ・サンタ・聖週間などの伝統行事が脈々と継承されていた。また地方のテレビ番組でエル・ロシオ巡礼を知った。これは汽水域の主女、白鳩とも称される聖母ロシオに捧げる宗教的巡礼で、エル・マンダーと呼ばれる信徒集団が幌馬車を運んでセウイリアから60キロほど西南にあるエル・ロシオ村を目指す。

その後エル・ロシオのことは忘却のなかに潜行していた。しかし異文化から日本への帰国の飛行は脳を活性化させるのだろうか、機中で突然ある「問い」が閃いたのである。日本にも四国遍路や熊野詣があるではないか。巡礼という風習は伝播によるものなのか、人類共通に自然発生したものなのか。専門の社会心理学を視座に研究を進め、自らも巡礼者となって四国遍路やサンチャゴ・コンポステラ巡礼を体験した。

巡礼は各地で自然発生したというのが私の結論である。調査により人類には文化、宗教、気候を超えて、山頂など空に近いところや、広い海のかなたに現世を超えた「トピア」がある」という認識があると明らかにした。これは「法的に言えば、集合的無意識」、つまり人類が無意識のうちに共有している価値観のつと言えらるだろう。また現代にいたるまで、徒歩巡礼者の心理過程も共通している。「自分とは何者なのか、自分を見つめ直したい」という動機、自己覚知、巡礼を行うという自己決定や巡礼に必要な装いを整えることで変身する自己、自己概念、困難な出来事を克服することによって得る自己効能感の増大（自尊心）、同じ巡礼者や地元住民との交流から生じる仲間意識や親密性（自己呈示・自己開示）といった過程で自己確認・変容をたどるのである。

現在は視点を巡礼者から、巡礼が発生する環境に移して研究を進めている。巡礼行動が人間の意識だけによって発生したものではなく、環境の側にも人間の心理に働きかける要素があると予想しているのである。こうした「聖地を聖地たらしめているもの」は何かを求め各地を比較しているが、アイルランド、日本、イベリア半島と現在までに調べた聖地にはやはり必ず「水（海や湖）」と「山（天空に近い頂）」が揃っている。この二者の関係性が、聖地のアフオーダンス誘発性」ではないかと思案しながら、巡礼を続けている。

藤原 武弘

関西学院大学
社会学部教授

ふじはら たけひろ

専攻は社会心理学。関西学院大学社会学部卒業、広島大学大学院教育学研究科博士課程実践心理学専攻退学。広島大学総合科学部助教授を経て現職。博士（心理学）。著書に「観光の社会心理学」（06年北大路書房、共著）、「芸術心理学の新しいかたち」（05年誠信書房、共著）、「社会的態度の理論・測定・応用」（01年関西学院大学出版会、単著）など。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部/高等部/中学部

神戸三田キャンパス（KSC）
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
総合政策学部 理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、<http://www.kwansei.ac.jp/information/sky.html> で御覧になれます。お問い合わせ・・・TEL:0798-54-6017（広報室）